

## のと海洋ふれあいセンター研究報告 第29号の発行について

### 1 趣旨

のと海洋ふれあいセンターでは、石川県の海岸と浅海域における自然環境の保護・管理を推進するため、その環境と生息生育する動植物に関する基礎的な調査研究を行っています。その研究成果は「のと海洋ふれあいセンター研究報告」として取りまとめ、年1回発行しています。

### 2 執筆・編集

調査研究で得られた資料の取りまとめ、原稿執筆は同センター職員をはじめ、同センターの調査研究に協力して下さる研究者が行い、編集は同センターが行っています。

### 3 規格 A4判、49ページ（白黒45ページ、カラー4ページ）

### 4 印刷部数 400部

### 5 主な送付先

国・各都道府県の関係機関と図書館、自然史系博物館と水族館、関連大学の図書館・研究施設などへ送付します。また、同センターのホームページでもPDFファイルを公開します。

(URL) [https://notomarine.jp/center/doc/No29\\_2023.pdf](https://notomarine.jp/center/doc/No29_2023.pdf)

### 6 内容（執筆者と要旨は別紙に記載）

- (1) ゴイシガニ *Palapedia integra* の形態変異個体の発見（6頁）
- (2) 石川県下におけるヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea* 5例の漂着記録（7頁）
- (3) 石川県で初めて確認されたナガオバネ群落（3頁）
- (4) 能登半島東岸におけるガラモ場の現存量と種組成（3頁）
- (5) 石川県輪島市で初めて採集されたニホンイトヨと県内における採集記録（7頁）
- (6) 富山湾沿岸で越冬したガンガゼ類の初記録（8頁）
- (7) のと海洋ふれあいセンター年次報告

## のと海洋ふれあいセンター研究報告第 29 号 掲載 5 編の要旨

### 1. 角田啓斗・新井優太郎・豊田賢治 (6 頁)

#### ゴイシガニ *Palapedia integra* の形態変異個体の発見

ゴイシガニの代表的な形態的特徴の 1 つは、甲羅の前縁が 4 つに分かれていることである。しかし、本種は甲羅に柔らかい毛が密生しているため、前縁の形態を観察することが困難な場合が多い。このような場合、軟毛を除去して観察することが多いが、貴重な標本を傷つけない非侵襲的な観察方法が望まれている。著者らは、石川県能登半島で採取した 16 標本を短時間 (約 15 分) の X 線 CT スキャンにより観察し、その結果雄の 1 個体における額域が 4 つではなく 3 つに分かれているという形態変異を明らかにした。

この研究によって、70% エタノール中の標本であっても、*P. integra* の軟毛を除去することなく、非侵襲的な X 線 CT スキャンによって高分解能の形態的变化を容易に検出できることを示した

### 2. 松村初男 (5 頁)

#### 石川県下におけるヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea* 5 例の漂着記録

1. 5 例の漂着標本は頭部の前額板、椎甲板、肋甲板、縁甲板及び亜縁甲板の小孔の形態からヒメウミガメと同定した。
2. 解剖した 3 標本 (標本 2、4、5) は、胃内容物は確認されず空胃であった。いずれも雌だった。食道内に砂礫が貯溜していた。
3. 漂着したヒメウミガメは痩せて衰弱または死後で、発見時期は厳冬季に限られていた。
4. 1988 年から 2023 年までの 35 年間に石川県下で確認したヒメウミガメは、今回の 5 標本を含めて 6 例となった。

### 3. 池森貴彦・東出幸真 (3 頁)

#### 石川県で初めて確認されたナガオバネ群落

環境省レッドリスト 2020 では情報不足(DD)とされている紅藻類、ナガオバネを石川県内で初めて確認した。

### 4. 池森貴彦・東出幸真 (3 頁)

#### 能登半島東岸におけるガラモ場の現存量と種組成

能登半島東岸のガラモ場 (褐藻ホンダワラ類の生育する場) の現存量については古くから調査が行われているが、2023 年の 5 月時点での能登町越坂において、水深別の現存量調査を実施した。

5. 荒川裕亮・高榮晋平 (6 頁)  
石川県輪島市で初めて採集されたニホンイトヨと県内における採集記録

1. 石川県において絶滅危惧I類に選定されているニホンイトヨの生息状況を把握するため、本研究は河川での採集調査と、これまでの石川県内における採集記録の収集を行った。
2. 2023年3月に実施された採集調査により、町野川河口に流入する水路においてニホンイトヨ2個体(雌:6.6 cm SL、雄:7.2 cm SL)が採集され、輪島市において初めて生息が確認された。
3. 石川県内における採集記録として、標本のある採集記録7件、記録のみの採集記録18件が得られた。採集地点として河北潟から大聖寺川にかけての金沢平野と、能登島を含む七尾市の2つの地域より得られた。
4. 金沢平野における採集記録は、主に河北潟や梯川で多く、1961年から1990年代までの記録が残されていた。
5. 七尾市の採集記録は、能登島を含む中小河川において、1990年代から2016年までの記録が得られた。

6. 荒川裕亮・高榮晋平 (7 頁)  
富山湾沿岸で越冬したガンガゼ類の初記録

1. ガンガゼ類の定着状況を把握するため、本研究は分布北限付近に位置する富山湾沿岸の石川県能登町と富山県魚津市の地先においてガンガゼ類の採集調査を実施した。
2. 水温が最も低下する3月以降に能登町ではアラサキガンガゼとガンガゼ、魚津市ではアラサキガンガゼが採集されたことから、越冬が確認された。
3. 採集されたガンガゼ類は主にアラサキガンガゼであり、ガンガゼと比べて生息数は多かった。
4. 6月までに採集されたガンガゼ類の殻径は主に10~25 mm程度であったが、48.3 mmと43.6 mmの1齢以上と考えられるアラサキガンガゼも能登町小木で採集された。
5. 10月の能登町小木では殻径36.0~49.8 mmと殻径63.4 mmのアラサキガンガゼが採集され、越冬個体の成長も確認された。
6. 2023年はこれまでの10年間で、ガンガゼ類の致死水温に近い10℃を下回る日数が少ない傾向であったことから、アラサキガンガゼやガンガゼは越冬することができたと考えられる。

## 7. のと海洋ふれあいセンター年次報告

### I-石川県の砂浜海岸における底生動物モニタリング調査 (8 頁)

2023 年の 4 月と 9 月、高松、甘田、今浜、千里浜の砂浜海岸でナミノリソコエビ等の底生動物の生息状況を調査した。シギ・チドリ類の重要なエサとなっているナミノリソコエビの生息量は、春の調査で千里浜海岸以外の海岸で短期世代群が優占した。これは千里浜以外では繁殖の開始時期が早まっていることが考えられる。秋の調査では高松海岸を除く全ての海岸で、これまでで最も少ない現存量を記録した。シギ・チドリ類はナミノリソコエビを採餌するためにこれらの海岸に飛来する。今後もナミノリソコエビの繁殖状況が変化する原因を定期的なモニタリング調査によってあきらかにし、シギ・チドリ類に十分なエサが供給できる環境を保全したいと考えている。

### II-九十九湾周辺における気象と水質 (5 頁)

2022 年 1 月から 12 月に観測した天候、気温、最高・最低気温、降水量、磯の海水温と塩分量、pH、そして赤潮が観察された日数を報告した。また、九十九湾周辺に設定した 13 定点で毎月 1 回、水温、塩分量、pH、および透明度の観測を行ったので、その結果を報告した。当センターでは 2011 年 1 月に定格出力 10kW の太陽光発電装置が整備されたので、その交流発電電力量 (kWh) も併せて報告した。